

28年度学校経営にあたって

ソウル日本人学校長 田中 栄一

1. ソウル日本人学校の特徴

(1) 子どもたちに日本と同等の教育を提供する学校である

- 学力保証、進路保証の確保（児童生徒は数年後に帰国する）
 - ・学習指導要領の確実な定着・・・年間授業日数、授業時数の確保
 - ・授業の質の確保とレベルアップ・・・教師の授業力、学級経営力の向上
 - ・ソウル日本人学校の受験体制づくり・・・進路保証、指導・評価の工夫改善

(2) 海外（韓国）にある学校である

- 韓国現地校との交流学习の充実
 - 小学部・・・上芝小、ハヌル小、上岩小、方現小、新龍山小との交流学习
 - 中学部・・・善一中、Dwight International School との交流学习
- 校外学習（見学・探検・修学旅行等）の充実
 - 小学部・・・下学年遠足、秋の遠足、上岩洞探検、二村洞探検、消防署見学、浄水場見学
宿泊学習、とびだせソウル探検隊、工場見学、国立博物館見学、修学旅行等
 - 中学部・・・ソウル市内校外学習、福祉体験学習、職場体験学習
修学旅行（※釜山日本人学校との交流）等

○韓国に学ぶ

- ・韓国の学校に学ぶ・・・現地校との交流学习、教職員研修（韓国の教育事情の理解）
- ・韓国の文化を学ぶ・・・チャング、サムノリ、その他
- ・日韓の歴史を学ぶ・・・現地理解研修の充実
- ・韓国語学習・・・交流の場面で成果を確認
- 日本の学校以上に日本らしく、特色ある教育課程の編成
 - ・本気で取り組む行事や活動・・・運動会、発表会（ワクエス等）、授業
 - ・日本文化を大切に・・・ソウル太鼓の継承、集会での発表
 - ・特色ある教育活動、週時程の工夫（クラブ・委員会活動、チャレンジタイム等）

(3) 幼小中が一緒に学ぶ学校である

- 幼児・児童・生徒をつなぐ手立て・・・交流集会や交流活動、なかよし弁当
- 教師間の具体的実践、年間計画の立案・・・異校種の授業・児童生徒を体験するチャンス

(4) 派遣教員が全国から集まっている学校である

- 教育実践の相互交流・・・全国の教育実践を学ぶチャンス（授業改善、全国の実践紹介）
- ソウル型学校教育の構築

(5) 空間の効果的活用ができる学校である

- オープンスペース、ラーニングセンター、I T機器等の有効活用
- 花壇・畑・校庭の計画的な活用

2. ソウル日本人学校教育の成果と継続した取組

(1) 成果と子どものよさ

- 学校評価（保護者）・・・教育活動、教育内容、教育環境等の全項目で80%以上の肯定的評価
- 保護者との連携・・・派遣教員による通学バス添乗（安全指導）、幼稚部子ども会等
- 明るく元気で主体性をもった子ども達・・・小学部縦割り班活動、中学部ファミリー等

(2) 継続した取組

- 「あいさつ・自学・立志」の継承
 - あいさつ・・・挨拶運動を児童会・生徒会の活動として継続
 - 自学・・・毎日の学習、読書の推進、暗唱チャレンジ等
 - 立志・・・1/2成人式、立志式
- 学級経営を基盤とした積極的な生徒指導の充実・・・TPOに応じた行動ができるように
- 児童生徒の表現力の向上・・・特に個やグループに分かれた時、個々人の力量アップ
- 体力の向上・・・授業の中で、日常生活での場づくり、外遊びの奨励、マラソン・駅伝大会

平成28年度 ソウル日本人学校経営方針

ソウル日本人学校
校長 田中 栄一

1. 本校の教育基盤

日本国憲法、教育基本法をはじめとする諸法規に準拠し、学習指導要領の指導方針に則り、初等中等教育の推進を図る。また、社会の要請や保護者の願いや期待に応え、人間性豊かな心身の調和のとれた子どもの育成に努めることで、本校の教育目標である「たくましく心豊かに世界に生きる子どもの育成」をめざす。

2. 本校の基本的態度

- (1) 韓国・ソウルで生活しているという貴重な体験を生かして特色ある教育活動を推進する。
- (2) 基礎・基本の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの持ち味を生かし、能力を高め、知・徳・体の調和のとれた教育を通し、心身ともに健康で国際性豊かな幼児・児童・生徒の育成に努める。
- (3) さまざまな体験を通して、真に社会で「生きる力」を育むことができるよう、全教職員が専門職としての資質と常に教育者としての使命感にあふれ、個々の特性や力量が生かされる組織と協働的な学校経営に進める。

3. 本校の教育目標

たくましく心豊かに世界に生きる子どもの育成

子ども達の自主・自立を願い、優しく思いやりのある人間関係づくりに努め、自分の目標に向かって努力・実践を惜しまない国際性豊かな子どもの育成。

- (1) めざす子ども像（自分の目標に向かって努力する子ども）
 - (ア) 礼儀正しく、進んで行動する子ども
 - (イ) 健康で、思いやりのある子ども
 - (ウ) 夢をもち、世界に向け心を開く子ども
 - (エ) 自他の人格を尊重し、和を重んじる愛情豊かな子ども
- (2) めざす教師像（教育愛に富み常に教育者としての使命感溢れる教師）
 - (ア) 子どもと共に学び、共に歩む教師
 - (イ) 情熱と責任をもち、共に励む教師
 - (ウ) 夢をもち、世界に目を向ける教師
 - (エ) 自ら研修に努め、子どもや保護者から信頼される教師
- (3) めざす学校像（子ども達が楽しく生活できる魅力ある学校）
 - (ア) 元気で明るく、さわやかな学校
 - (イ) 美しく豊かな環境と潤いのある学校
 - (ウ) 夢をもち、世界に向け心を開く学校
 - (エ) 子どもが楽しく生活することができる、安心・安全な学校

4. 本年度の重点目標

あいさつ

自 学

立 志

基本的生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志を持つ：「あいさつ」「自学」「立志」

- (1) 確かな学力の育成
 - ・ 発達段階をふまえた小・中学校間のなめらかな接続
 - ・ 9年間を見通したカリキュラムに基づく学習指導
- (2) 心の教育の充実
 - ・ 発達段階をふまえた心の教育の充実
- (3) 健康教育の推進
 - ・ 発達段階をふまえた児童生徒の体力向上
- (4) 国際理解教育の推進
 - ・ 発達段階をふまえた国際理解教育の推進
- (5) キャリア教育の推進
 - ・ 将来への目標を持ち、進路を切り開く節目をとらえたキャリア教育
- (6) 生徒指導の充実
 - ・ 積極的な生徒指導
- (7) 安全な学校づくり
 - ・ 危機管理意識の徹底

5. 本年度の具体的取組

- (1) 確かな学力の育成
 - 基礎・基本的な知識の習得・活用、学習意欲を高める授業づくり（授業改善）
 - 自己学習力の育成（自主的、意欲的な学習姿勢の育成）
 - 校内研修の充実
 - ・ 指導と評価の一体化、校内公開授業研究の推進
 - ・ 釜山日本人学校との交流（職員合同研修会の実施）
- (2) 心の教育の充実
 - 「明るくさわやかなあいさつ」運動の継続
 - 職員自らが率先して、児童生徒の自主活動を生かした「あいさつ」運動の継続
 - 道徳の時間の充実
 - 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して子どもたちの成長の過程を考慮し子どもの心に響く道徳授業の実践
 - 人間関係づくりを重視した学級づくり
 - 自己肯定感の醸成
- (3) 健康教育の推進
 - 外遊びの奨励
 - 安全な学校生活
 - 体力の向上（体育科、保健体育科の授業内容の充実、マラソン・駅伝大会等行事）
- (4) 国際理解教育の推進
 - 発達段階をふまえた国際理解教育の推進
 - ・ 校外学習、体験学習、修学旅行等の行事
 - ・ 韓国語教育（小1～中3）、英会話教育（幼稚部～中3）
 - 現地校との交流
 - ・ 体験を通じた日本文化、韓国文化の理解
 - 現地理解研修の充実
 - ・ 職員研修（現地教員との交流）

(5) キャリア教育の推進

- 将来への目標を持ち、進路を切り開く節目をとらえたキャリア教育
- 発達段階に合わせ節目をとらえた意識づけ
1/2 成人式（小学4年）、立志式（中学2年）

(6) 生徒指導の充実

- 積極的な生徒指導（ソウル日本人学校型の確立）
学級経営を基盤とした落ち着いた学校づくり、全校で意識した行動規範づくり
師弟同行（掃除の時間は教師も一緒に汗を流す）
- 集会活動の充実
学校朝会、学部朝会、全校集会、なかよし集会
- 委員会活動の小中連携
生徒会と児童会との連携（学校全体をリードする組織に）
- バス指導の継続実施（派遣教員による通学バス添乗、バスマナーの徹底）
- 子どもとの遊ぶ時間の確保（子どもとの触れ合いは生徒指導の基本）

(7) 安全な学校づくり

- 職員の危機管理意識の徹底
（さ：最悪の事態を想定し し：慎重に す：すばやく せ：誠意をもって そ：組織的に）
- 安全管理の充実
7時10分：派遣教員（二村洞）によるバス安全指導、添乗
7時45分：派遣教員（上村岩）による児童生徒の安全確保、児童生徒会との挨拶運動
- 教育環境の整備
- 関係機関との連携

(8) 特別支援教育体制の確立

- 支援を必要とする児童生徒への「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」
- 支援体制の確立と個別支援教室の整備

(9) 教職員の連携

- 派遣教員・現地採用教職員・非常勤講師の連携
- 施設・設備を生かした教育の充実（幼小中の指導交流、ICT機器の活用）